

芦北町議会だより



うたせ

第53号

平成30年
6月5日発行



ゴールデンウィークで賑わう芦北海浜総合公園

- 臨時議会……………P 2 ～ 3
- 3月定例議会……………P 4
- 総務常任委員長報告……………P 6
- 建設経済常任委員長報告……………P 7 ～ 8
- 文教厚生常任委員長報告……………P 8 ～ 9
- 一般質問……………P10～11
- 議会のうごき・編集後記……………P12



初議会

4月6日に臨時議会（選挙後の初議会）を開催し、議長に宮尾秀行氏、副議長に草野安道氏を選出するとともに、各常任委員、議会運営委員、広報委員、及び監査委員を選任した。

また、芦北町税条例等及び芦北町国民健康保険税条例並びに芦北町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定についての専決処分を承認した。

議長に宮尾秀行氏 副議長に草野安道氏 委員会構成と監査委員も決まる！

① 4回
② 大野
③ 文教厚生
議会運営



やすみち 草野 安道

副議長

① 4回
② 田浦



みやお ひでゆき 宮尾 秀行

議長

議長就任
あいさつ

4月6日の臨時議会において、議長に就任しました。

大変な重責で身の引き締まる思いと共に、今後も町民の皆様の幸せのために、不偏不党の考えを基に滅私奉公する覚悟です。

全国的に少子・高齢化が進んでいますが、少ない人口の中でも、生きがいを見つけて元気で活動する高齢者、夢に向かって頑張る若者の割合がいかに多いかが町の活性化につながると思っています。

民意を反映しつつ、議員一人一人自らが町民の幸せ、町の発展のため何をすべきかを真剣に考え、鋭意努力する議会を今以上に目指す所存です。

町民各位のご支援とご協力をよろしくお願いしつつ就任のご挨拶といたします。

委員会構成		議会運営委員会	総務常任委員会	建設経済常任委員会	文教厚生常任委員会	広報委員会
	委員長	元山 秀志	白坂 康浩	宮内 道則	林田 燿宏	荒川 知章
	副委員長	白坂 康浩	平松 洋一	寺本 順一	岡部恵美子	林田 燿宏
	委員	草野 安道	元山 秀志	寺本 修一	川尻 成美	川尻 成美
	委員	宮内 道則	前田 徹一	坂本 登	草野 安道	寺本 順一
	委員	林田 燿宏	古村 逸男	荒川 知章	藤井 公輔	宮内 道則
	委員	荒川 知章				藤井 公輔



てらもと しゅういち
寺本 修一

① 4回 ② 田浦
③ 建設経済



おかべ えみこ
岡部 恵美子

① 4回 ② 湯浦
③ 文教厚生副委員長

議員を紹介します

- ① 当選回数 ② 地区名
③ 所属委員会



まえだ てついち
前田 徹一

① 4回 ② 米田
③ 総務



もとやま しゅうじ
元山 秀志

① 4回 ② 小田浦
③ 議会運営委員長
総務



ひらまつ よういち
平松 洋一

① 4回 ② 小田浦
③ 総務副委員長



かわしり なるみ
川尻 成美

① 4回 ② 女島
③ 文教厚生、広報



みやうち みちのり
宮内 道則

① 4回 ② 白岩
③ 建設経済委員長
議会運営、広報



てらもと じゅんいち
寺本 順一

① 4回 ② 田浦町
③ 建設経済副委員長
広報



こむら いつお
古村 逸男

① 4回 ② 芦北
③ 総務、監査委員



しらさか やすひろ
白坂 康浩

① 4回 ② 花岡
③ 総務委員長
議会運営副委員長



ふじい こうすけ
藤井 公輔

① 1回 ② 花岡
③ 文教厚生、広報



あらかわ ともあき
荒川 知章

① 2回 ② 米田
③ 広報委員長、建設経済
議会運営



はやしだ ようこう
林田 耀宏

① 2回 ② 湯浦
③ 文教厚生委員長
広報副委員長、議会運営



さかもと のぼる
坂本 登

① 3回 ② 花岡
③ 建設経済

3月定例議会



3月定例議会は、3月2日に召集され、13日までの12日間の会期で開催された。

上程された議案は、平成30年度当初予算をはじめ、平成29年度一般会計補正予算、特別会計補正予算及び芦北町情報公開条例並びに芦北町個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定など35議案で、平成30年度一般会計予算については、起立による採決の結果、賛成多数で原案のとおり可決し、他の議案は全会一致で可決した。

一般質問には2議員が登壇し、町執行部の考えを問いました。

町長の施政方針と予算大綱（要約）

◎町政運営の基本的な考え方

本町では、国の動向を踏まえ、第二次芦北町総合計画をベースとして、町総合戦略など個別計画の着実な進捗を図る中で、「町民生活の安全・安心の実現」につながるよう「スピード感を持った施策の立案と実施」を視点として、予算編成を行いました。

◎予算大綱について

平成30年度の一般会計予算総額は、97億3,200万円となりました。

町税につきましては、住民税の扶養控除等の減



施政方針と予算大綱を説明する竹崎町長

少による増収分及び固定資産税ではメガソーラーに係る償却資産の課税免除期間の終了による増額を見込み前年比1億4,400万円増となる17億5,920万円を計上しました。

地方交付税につきましては、36億2,800万円を見込み、国庫支出金につきましては、9億4,820万円を計上しております。

繰入金、財政需要や普通交付税の合併算定替の減額に対応するため、まちづくり振興基金の繰入れをはじめとして、総額5億9,045万円を計上し、町債は、臨時財政対策債や過疎対策事業債など9億3,640万円を措置いたしました。

歳出につきましては、人件費が職員数の減による職員給、共済組合負担金等の減により、3,365万円減の18億8,262万円となっております。

扶助費につきましては、16億503万円を措置いたしました。

投資的経費につきましては、地域課題の解決や住民要望等への対応を考慮し、前年度から1億2,366万円増の12億8,963万円を措置いたしました。

◎まちづくりの目標

- ① 地域活力と雇用を生み出す産業づくり
- ② 地域で守り育てるまちづくり
- ③ 郷土の未来を育む人づくり
- ④ 暮らしを支える基盤づくり
- ⑤ 住民と行政の協働のまちづくり

◎結び

国内は急激な人口減少、少子高齢化など社会的課題に直面し、本町を取り巻く環境も厳しさを増しております。

暮らしやすい「ふるさと芦北町」の実現に向け、良質な行政サービスの展開に努めてまいります。

平成30年度 当初予算を可決 160億8,000万円

(金額は1万円未満を四捨五入)

会 計 名		30年度予算額	増減率
一	般 会 計	97億3,200万円	△0.2%
特 別 会 計	国 民 健 康 保 険 事 業	30億 600万円	△18.1%
	介 護 保 険 事 業	23億 700万円	2.4%
	農 業 集 落 排 水 事 業	2億1,900万円	△0.9%
	生 活 排 水 処 理 事 業	5,600万円	△2.6%
	町 有 温 泉 事 業	1億 400万円	2.0%
	奨 学 資 金 貸 付 事 業	2,900万円	△14.7%
	後 期 高 齢 者 医 療 事 業	2億8,500万円	6.1%
水 道 事 業 (公 営 企 業 会 計)		3億4,200万円	14.4%
合 計		160億8,000万円	△3.5%

平成29年度 3月補正予算を可決 2億8,297万円を追加

会 計 名		補正額(増額)	補正後の総額
一	般 会 計	2億4,430万円	103億6,572万円
特別会計	介 護 保 険 事 業	3,867万円	23億3,319万円
今回補正が行われなかった会計		—	46億8,135万円
合 計		2億8,297万円	173億8,026万円

◆補正予算の主な事業

○一般会計

本庁舎駐車場用地購入費	1,488万円
芦北消防署用地購入費	8,600万円
町有施設整備基金積立金	1億3,530万円
ふるさと応援寄附金基金積立金	1,550万円
ふるさと寄付返礼品	520万円
自立支援給付費等扶助費	2,480万円
障害児通所給付費扶助費	608万円

○介護保険事業特別会計

居宅介護サービス給付費他

総務常任委員長報告

一抜粋一

平成30年度の一般会計予算総額は、前年度比2千万円減の97億3,200万円が計上されております。

特別会計は、7会計の合計で、前年度比5億9,810万円減の60億600万円となっております。一般会計、特別会計及び水道事業会計を合わせた平成30年度の予算総額は、160億8,000万円となっております。

【企画財政課】

前年度比9,209万4千円減の14億1,970万6千円が予算計上されております。主な減額の理由は、長期債元金、起債の償還に係る利子等の減によるものです。

主な事業として、ふるさと応援寄附金事業、地域おこし協力隊事業が継続して取り組まれます。また、移住・定住事業においては、活用可能な空家の確保を図るため新たに空家改修等の補助制度が創設されます。光情報通信基盤整備事業は、最終年度となり、整備が進められます。

す。

主な質疑として、ふるさと応援寄附金事業について、返礼品や寄付額に関する質疑があり、返礼品としては、デコボン等の果物やその加工品が多く、寄付金額は、1万円が全体の60パーセントを占めているとの答弁がありました。



ふるさと応援寄附金事業の返礼品

【総務課】

前年度比1億2,645万5千円増の13億2,788万1千

円が予算計上されております。

主な増額の理由は、芦北消防署建設に係る水保芦北広域行政事務組合負担金、消防団詰所増築に係る消防施設費の増などによるものです。

平成30年度から田浦基幹支所が田浦支所となり総務課管轄となります。時代の変化や行政課題に対応するため効率的な行政組織の見直しや、定員の適正化など行政組織の強化が図られます。

主な事業として、防犯灯の設置補助の推進や防犯カメラの設置などが計画的に取り組まれ、常備消防支援のほか積載車1台、小型動力ポンプ2台を購入し、さらなる消防力の強化が図られます。

主な質疑として、消防施設の増築はどこを計画しているのかとの質疑があり、湯浦の第6分団1部であるとの答弁がありました。



消防積載車と小型動力ポンプ

【議会事務局】

議会費と監査委員費において、前年度比135万1千円増の1億2,254万9千円が予算計上されております。委員から主な増額の理由は何かとの質疑があり、議場の椅子購入費の増によるものとの答弁がありました。

【会計室】

前年度比23万2千円増の17万7千円が予算計上されております。主な増額の理由は、印刷製本費の増と窓口収納手数料の増によるものです。

主な質疑として、窓口収納手数料が増額になった理由は何かとの質疑があり、手数料改正により、平成30年度の予算から1件当たりの取扱手数料の単価を5円増額したためとの答弁がありました。

【税務課】

前年度比94万1千円増の3,394万7千円が計上されております。主な増額の理由は、システム改修業務等の各種業務委託料の増及び職員研修費の増によるものです。主な事業として、平成33年度の評価替えに向けた固定資産税課税土地評価業務委託が2年間の債務負担行為を設定して行われます。

主な質疑として、研修での具体的なスキルアップの方法はとの質疑に対し、県内外の各種専門研修会に参加することで必要な知識の習得を行うとの答弁がありました。

議案第13号「芦北町債権管理条例の制定」

債権管理の基準を明確化し、全庁統一した債権管理を行い、財政の健全化と町民負担の公平を担保するため新たに条例を定めるものとの説明がありました。県下の制定状況はどうかとの質疑があり、県下9市町村が制定しているとの答弁がありました。質疑終了後は討論もなく、議案第13号については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

建設経済常任委員長報告

一抜粋一

【建設課】

町道射場芦北線花岡工区の改良工事が引き続き実施されるとともに、芦北工区の工事にも着手されます。また、その他の町道につきましても計画的な改良や維持補修とともに、交付金を活用した橋りょうとトンネルの定期点検及び山崎橋の補修工事が実施されるなど、主要事業について説明があり、歳出総額は、7億7,905万8千円で、前年度比9・2%の減となりました。



補修予定の山崎橋

主な質疑として、急傾斜地崩壊対策事業について、負担金の違いは何かとの質疑に対し、単県急傾斜地崩壊対策事業は、国庫補助事業の採択要件を満たさないため、県の負担で事業を行うことから負担率が高くなっているとの答弁がありました。

【農林水産課】

農業振興では、優良農地確保のため概ね5年に1回行っている農業振興地域整備計画の見直しを行うとともに、高齢化する農業従事者対策として、農作業委託に対する支援を継続することにより、労働力の確保・生産性の維持が図られます。

果樹振興では、新たにハウス施設の附帯設備の修繕に対して支援が計画され、農地整備関係については、芦北宮浦地区等のほ場整備に取り組みとともに、国見地区や計石地区及び田浦地区などのほ場整備の実現に向けた積極的な取

り組みが計画されています。

林業振興では、活用期に達した森林の伐採や搬出作業に伴う支援が引き続き計画され、植林や下刈り作業及びシカネットの設置に対する支援と、一歳児を対象に町産材で作ったおもちゃを贈呈する木育事業なども継続して計画されています。

漁業振興では、地域の海産物及び内水面資源を活かした、他にはない安全・安心・良質な特産品の開発に継続して取り組むとともに、漁港整備事業では、土砂堆積した田浦漁港において浚渫が計画されているとの説明があり、歳出総額は、4億3,533万3千円となり、前年比12・0%の減となっています。

主な質疑として、新たに取組む芦北町漁協のサワラのブランド化について、出荷先はどのように計画されているのかとの質疑に対し、田浦銀太刀と同じ出荷先などが計画されているとの答弁がありました。

【農業委員会事務局】

昨年7月から農業委員11人、農地利用最適化推進委員15人の計26人で新たな組織としてスタートしており、農業委員及び農地利用最適化推進委員と協力して担い手への農地の利用集積や遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進への取り組みが計画されています。

農業委員会運営事業費では、農業委員視察研修旅費及び研修時のバス借り上げ料が計上され、歳出総額1,588万7千円、前年比3・9%の増となっています。

主な質疑として、担い手農地集積推進事業の交付金額は少ないのではないかと質疑に対し、受け手の農地に対する



浚渫予定の田浦漁港

る賃借料を基準として設定しているとの答弁がありました。

【上下水道課】

農業集落排水事業及び生活排水処理事業特別会計繰出金その他、浄化槽設置整備事業については、合併浄化槽50基分の補助金が計上されています。

また、飲料水供給施設整備事業では、小規模集落における安定的な生活用水の確保に向け、3水道組合に対しての補助金が計画され、歳出総額2億1,517万3千円、前年比3・6%の増となっています。

主な質疑として、各地区等の水道組合の水質検査は行っているかとの質疑に対し、水質検査はそれぞれの組合で実施すべきものであるが、町として、保健衛生面の安全確保の観点から、今後も機会を見て検査を実施するよう指導したいとの答弁がありました。

【商工観光課】

商工業振興費で、新たな取組みとして八代圏域ツナガールインターシップ推進事業負担金、中小企業人材育成研



大型クルーズ船とプレミアム商品券

修補助金が措置され、プレミアム付商品券発行補助金を増額するなど、消費喚起とともに商工業者の育成及び強化が図られています。

観光費では、新たに観光うたせ船ブランド化推進事業費、大型クルーズ船等インバウンド環境整備補助金、地域資源PRイベント業務委託料が措置されています。

歳出総額は、4億6,370万7千円、前年比3・3%の増となっています。

主な質疑として、大型クルーズ船インバウンド環境整備補助金とはどのようなものかとの質疑があり、八代港に入港する大型クルーズ船の来客に対し、看板設置やパンフレット作製など、受け入れ態勢を整え誘客を推進していくとの答弁がありました。

議案第7号「平成30年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算」

長寿命化を図るために行ってきた老朽化の要因を特定する機能診断が、平成29年度で完了し、その機能診断結果に基づき、機能保全の対策方法等を定める最適整備構想の策定が計画されたとの説明があり、予算総額は、2億1,900万円で、前年比0・9%の減となっています。

主な質疑として、最適整備構想の整備とは具体的にどのようなものかとの質疑に対し、診断結果を基に老朽化の度合いを考慮してランク分けを行い、5年間の適切な補修計画を策定するものとの答弁がありました。

議案第8号「平成30年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算」

平成30年度の管理する浄化槽の維持管理費について説明があり、予算総額は、5,600万円で、前年比2・6%の減となっています。

主な質疑として、使用料の滞納状況はどうなっているかとの質疑に対し、昨年7月25

日現在で18人、約80万円であるとの答弁がありました。

議案第9号「平成30年度芦北町有温泉事業特別会計予算」

平成30年度も、各温泉施設の適正な維持管理に努めるとともに、サービスの拡充と集客を図るとの説明があり、歳出総額は、1億400万円で、前年比2・0%の増となっています。

主な質疑として、大野温泉センターでシロアリ駆除が計画されているが、何時被害が

確認されたのかとの質疑に対し、本年度実施した調査により判明したとの答弁がありました。

議案第12号「平成30年度芦北町水道事業会計予算」

平成30年度は、給水条例の一部改正により水道使用料の収益が、前年比17・1%増と見込まれており、水道事業として前年比4,300万円増の予算総額3億4,200万円が計上されています。

これまでの課題であった、

施設や管路の更新及び耐震化を図るため、配水管布設替えや花岡浄水場耐震診断業務委託等を行い、安定した事業経営並びに健全な運営を維持していきたいと説明がありました。

主な質疑として、今後の布設替工事等の予算額は、どう計画していくのかとの質疑に対し、予算額は本年度並み6,000万円程度になるが、内容は布設替工事だけでなく、耐震化工事なども含め長期計画に基づき行っていきたいとの答弁がありました。

文教厚生常任委員長報告

一抜粋一

【福祉課】

前年度に対し、7,939万9千円減の17億9,394万円が計上されております。

児童福祉において、子ども医療費の無料化については、引き続き18歳までを対象として実施し、放課後児童健全育成事業（学童保育）については、平成30年度から湯浦地区において新

たに開設するなど、保護者の子育てと就労支援を図っていくとの説明がありました。

主な質疑として、地方消費者行政活性化事業費の増額の要因は何かとの質疑に対し、弁護士相談会を年4回開催していたが、相談件数が多いため、平成30年度から毎月開催するためとの答弁がありました。

【民生生活課】

前年度に対し、5,567万3千円増の19億2,874万円が計上されております。

保健業務では、平成30年度から35年度の6年間を期間とする第3期芦北町健康づくり推進計画に基づき、子どもから高齢者までライフステージに合わせた健康づくりに取り組んでいくと

の説明がありました。

主な質疑として、自殺対策計画を策定する経緯と、どのような内容なのかとの質疑に対し、自殺対策基本法に基づき平成30年度に策定が義務付けられたもので、自殺の要因となる様々な問題に対する各種相談窓口の連携強化への取り組み等について、保健所や町内医療機関の医師に協力いただいて盛り込んでいくとの答弁がありました。

修繕改修工事、教師用道徳教科書・指導書の購入費用等でございます。

主な質疑として、入学準備金の支払現状はどうなっているのかとの質疑に対し、平成29年度に要綱を改正し平成30年度入学予定者に対して、平成30年2月に支払を行いましたとの答弁がありました。

【生涯学習課】

前年度に対し9,457万8千円増の4億4,241万9千円が計上されております。

佐敷城跡観月会など特色ある事業を引き続き開催するとともに、前年に引き続き八代・芦北の七夕綱調査事業に取り組んでいくとの説明がありました。

また、芦北町誌編さん事業について、関連資料の収集、調査、執筆活動など平成33年度の刊行を目指して進められております。

主な質疑として、星野富弘美術館の出前講座の内容について説明願いたいとの質疑に対し、町内小中学校と連携して、心の教育を推進し星野富弘氏の生き方や作品を通して心の教育に関する講座を、全小中学校に出向いて実施するよう計画しているとの答弁がありました。



スロージョギング体験の様子

【教育課】

前年度に対し、634万円増の4億5,710万5千円が計上されております。

主な事業として、学校施設の



出前講座を計画している星野富弘美術館

議案第5号「平成30年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算」

事業勘定については、前年度に対し、6億、6000万円減の29億8,000万円が計上されております。

平成30年度から、都道府県が財政運営の責任主体となる国保運営の都道府県化が始まりますが、制度の円滑な施行に向けて努めてまいりますとの説明がありました。

直診勘定については、前年度に対し、300万円減の2,600万円が計上されております。地域住民が安全安心な生活を

送ることができるよう、患者輸送車両による患者送迎で通院の利便性の確保と診療の効率化を図り、へき地医療支援機構等との連携により、安定した診療体制を構築してまいりますとの説明がありました。

議案第6号「平成30年度芦北町介護保険事業特別会計予算」

前年度に対し、5,500万円増の23億700万円が計上されております。

平成30年度は、平成32年度までを計画期間とする第7期芦北町老人保健福祉計画・介護保険事業計画の1年目となり、第6期計画に引き続き地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護予防・日常生活支援総合事業の取組みと在宅医療・介護連携推進事業や認知症総合支援対策に取り組んでいきますとの説明がありました。

議案第10号「平成30年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算」

前年度に対し、500万円減の2,900万円が計上されております。

主な質疑として、奨学資金予算500万円の減額理由は何か

との質疑に対し、平成29年度からの継続貸付者が減少したためであるとの答弁がありました。

議案第11号「平成30年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算」

前年度に対し、1,640万円増の2億8,500万円が計上されております。

平成30年度も引き続き、健康診査委託事業や歯科健診事業及び人間ドック健診補助を実施し、被保険者の健康保持・増進を図るとともに、疾病の早期発見と重症化の防止に努めるとの説明がありました。

議案第14号「芦北町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の制定について」

介護保険法の一部改正に伴い、芦北町における居宅介護支援等の事業に係る人員や運営などに関する基準等について、新たに条例を定める必要があるとの説明がありました。

説明後は、質疑・討論もなく、議案第14号については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

一般質問 (抜粋)

国民健康保険制度の改正について！



坂本議員

質 平成30年度の国民健康保険税はどうなるのか。

答 町長

県から示された、平成30年度の1人当たり標準保険料は、3,398円の負担増となるが、被保険者の負担軽減を考慮し、当分の間今ある財源で補い、現行税率を据え置く事になっている。

質 今後、医療費の納付金に對して税収が不足した場合の対処方法はどのように考えているか。

答 住民生活課長

納付金については、今ある財源で補うため、不足はないと考えている。

質 国民健康保険税の税率向上に向けた取り組みをどう進める考えか。

答 税務課長

今までどおり、地方税法や税条例などに基つき厳正かつ公正・公平な課税徴収を行い、

財源の確保に努めたい。

佐敷駅前駐車場の管理は

質 町が管理している佐敷駅前駐車場の設置目的は何か。

答 総務課長

佐敷駅及び駅前商店街の利用者の駐車場である。

質 頻繁に駐車している車両があることを町は把握しているか。

答 総務課長

町として満車状態であるということは把握しているが、頻繁にとという個別の車両までは、把握していない。

質 利用者を公募等により選定し、利用者を定め、駐車場の一部を月極め等の駐車場とする考えはないか。

答 総務課長

佐敷駅及び駅前商店街の利用者が自由に使える駐車場としており、月極め等の形態に

よる貸し付けは考えていない。

質 駐車場で事件・事故が発生した場合に連絡先等の表示がないが、設置目的も含め看板等を設置する考えはないか。

答 総務課長

佐敷駅前駐車場は無料で開放している駐車場であるので、設置はしていない。なお、設置目的の看板については、設置すべく既に準備を進めている。



佐敷駅前駐車場

役場庁舎の案内表示板設置は

質 役場庁舎内の各課、特に

農林水産課がわかりにくく、別棟の表示も含め案内図を充実させる考えはないか。

答 総務課長

平成30年4月1日より組織再編が行われるので、これに併せて設置すべく、既に準備を進めている。

スクールバス及びツクールバスの乗降ステップの改善は

質 低学年の児童や障がい者・高齢者等の安心・安全な乗降を考え、全車に補助ステップを装備する考えはないか。

答 教育課長

平成23年度以降、車両を入れ替える際には、ステップ付のバスを購入していて、既に5台はステップ付のバスである。

今後も計画的にステップ付のバスに切り替えていく予定である。



川尻議員

一般質問 (抜粋)

本町で働く外国人技能実習生に対する行政としての支援策は！

質 近年、国内で働く外国人

技能実習生の受け入れが増加し、本町でも3か国14人が働

いている。本町で働く実習生の現状を行政としてどう把握しているか。

答 住民生活課長

現在、技能実習を在留資格とする外国人の住民基本台帳への住民票の登録者数は14人です。住民生活課の業務は、あくまでも住民登録業務であり、働く現状等については把握していない。

質 在留カード発行手続き時に受け入れ企業名と住居も伝えてあるが、それも把握していないのか。

答 町長

行政事業としては、きちんと対応している。

質 外国人実習生の労働及び

生活環境を守るため、行政として何らかの支援・対応策は

考えていないか。

答 町長

雇用者側で福利厚生面の対応をされるのではと思う。芦北町国際交流協会に情報提供してもらいたい。

質 町民講座の中に外国人実

習生向けの日本語講座を開講し、日本語学習を行うことはできないか。

答 町長

語学の町民講座は、指導者の問題もあり、教育委員会に提言があったこととして受け止めたい。

山間地の交通事情と高齢者への対応策は

質 「山間地のみちしるべ」

という見出しで連載記事が熊日新聞に掲載された。

公共交通網形成計画の策定

に向けたアンケート結果を明らかにされたい。

答 企画財政課長

公共交通の問題や課題、ニーズや利用意向、費用負担等に関する住民意識の把握を目的として実施し、結果については、アンケート調査の他に、鉄道利用者や交通事業者へのヒアリングも含め業務委託しており、現在、とりまとめ中である。

質 「公共交通網形成計画」とは具体的にどのような内容か。

答 企画財政課長

「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づいて作成する計画で、町が目指す将来像を踏まえた地域公共交通のあり方を示すマスタープランである。

質 町長は、福祉の視点を積極

的に取り入れ俯瞰的に交通体系を見直すと、熊日新聞

「芦北の交通事情」の取材に対して答えています。具体的に説明されたい。

答 町長

人口減少や高齢化に伴い、今後対応が必要となる公共交通であり、これまでの交通サービスに捕らわれることなく、様々な運行のあり方を考える必要があるとの意味である。

また、福祉とは広い意味の福祉で満足すべき生活環境を整えていくことである。



議会のうごき

- 1月17日 広報特別委員会
- 29日 熊本市市町村振興協会第6回理事会(熊本市)
- 2月2日 熊本市町村議会議長会第5回理事会(熊本市)
- 15日 長崎県佐々町議会視察研修来町
- 16日 熊本市町村議会議長会定期総会(熊本市)
- 23日 議会運営委員会
- 23日 全員協議会
- 3月2日 3月定例議会(議案審議)
- 連合審査会
- 5日 建設経済常任委員会
- 文教厚生常任委員会
- 6日 総務常任委員会
- 文教厚生常任委員会
- 7日 総務常任委員会
- 建設経済常任委員会
- 8日 水俣・芦北地域振興財団第33回理事会(熊本市)
- 12日 3月定例議会(一般質問)
- 13日 3月定例議会(議案審議)
- 水俣芦北広域行政事務組合議会定例会
- 25日 芦北町議会議員一般選挙(投・開票)
- 4月6日 議会臨時会(改選後の初議会)
- 17日 広報委員会
- 5月15日 広報委員会
- 22日 熊本市町村議会議長研修会・臨時総会

傍聴に来てください。



次の議会は6月中旬の予定です。

この度、議会広報委員会の新委員6人が決まりました。これまで特別委員会という位置づけで会期ごとに議会の議決により設置されていましたが、今回から常任委員会となり、常設の委員会となりました。議会だより「うたせ」は一年に4回、定例議会・臨時議会・各委員会の内容等について編集し、発行しています。紙面の都合上、掲載する内容は実際に議論されている一部となつてしまっていますが、紙面の許す限り詳細に皆様方にお伝えできるように委員全員で力を合わせ編集させていただきます。また、皆様方の一般質問の傍聴もお待ちしております。

(荒川)

編集後記



長崎県佐々町議会視察来町

2月15日に長崎県佐々町議会の皆さんが行政視察のため訪問され寺本議長が対応しました。今回の視察は、「学校給食センター整備について」の研修で、センター内を視察した後、衛生管理や食物アレルギーの対応、食育への取り組み及び業務コストの縮減と環境配慮等について、担当課の職員が説明し、研修参加者から熱心に質疑応答がおこなわれました。



学校給食センター調理の様子

新メンバーでがんばります

芦北町議会議員の改選により、4月から広報委員会のメンバーも新しくなりました。

議会の活動や審議内容を広く町民にお知らせするために、広報誌を発行いたします。



議会広報委員会

委員長	荒川 知章
副委員長	林田 耀宏
委員	川尻 成美
委員	寺本 順一
委員	宮内 道則
委員	藤井 公輔